

運営会議(旧 まちの課題整理プロジェクトチーム)における  
課題整理状況  
(第45回 全体会 資料)  
2025/12/10

分冊⑥

【教育と福祉と医療の連携に関するプロジェクトチーム】

※課題No. 下の( )内は課題提出年度

◎プロジェクトチームは平成30年度末で終結。継続的に検討が必要な課題については、子ども部会および課題が関係する組織で引き続き検討。

No. ねんど (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム） としての見解	結果	カテゴリ
れい 例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解を受けた結果、 〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
41 (H26)	高次脳機能障害の方の日常活動について、送迎の無い事業所への通所に、移動支援を利用できるようにしてほしい。高い。次脳機能障害は脳の損傷箇所によって非常に特異的な症状が現れるため、新しい道順を見つけることが極端に難しい場合がある。通所の訓練のため、個々の状態に合わせた期間の移動支援利用を認めてもらいたい。（東区24）	移動支援の対象者及び対象となる外出範囲を拡大してほしい。	【課題整理済】 ・「移動」に関する課題をまとめて、まちの課題整理プロジェクトチームとして解決への方向性（案）を検討した結果、今後はその案をもとに別に検討会議を設けるか、あるいは大学等の機関にも協力してもらい、移動に関する課題について一体的に解決に向けた方向性を整理する予定。 ・平成28年度、「障がいのある方の移動の支援に関するアンケート」を委託相談を対象に実施。 ・運営会議内に移動に関するワーキングチームを設置することを決定。活動内容は主に課題整理と課題解決へ向けての方向性の提案とする。ワーキングチームからの提案内容については、運営会議で検討する。活動期限は、まちづくり推進会議への課題の提案と次期障がい者プランの見直し、方向性の提案を行うまで。（平成30年6月運営会議にて、チームメンバー等決定）	・第28回札幌市自立支援協議会全体会で、移動に関する課題についての重点項目などが承認され、移動に関する全市的検討会の設置を新「さっぽろ障がい者プラン」に盛り込むよう働きかけ。 ・福祉のまちづくり推進会議で、自立支援協議会から出ている課題について取り上げられないかという議論がされたが、具体化には至らず。（No.18と26にも関連の記載あり） ・運営会議（H30.12）にて移動に関するプロジェクトチーム立ち上げに向けてのワーキングチームよりプロジェクト趣旨、構成員について提案。プロジェクト立ち上げを運営会議にて決定。第32回全体会でプロジェクトチームの承認を目指す。 【令和元年度】 ・第32回全体会（R1.5月）にて、移動に関するプロジェクトチームの設置承認。障がいごとの移動に関する聞き取り調査、課題整理等を行い、障がい者プランへの提案を自指す。 ・移動に関するプロジェクトチームで、障がいのある方の移動に関する課題、移動の際に工夫していることを把握するため、移動に関するアンケート調査を実施し、「さっぽろ障がい者プラン2018」改定に提案。 【令和2年度】 ・令和元年度に行なった移動に関するアンケート調査のまとめをし、改めて移動課題についての整理を行なっている。福祉のまちづくり推進会議にプロジェクトのまとめを報告。 ・第35回全体会（令和2年12月）にて移動に関するプロジェクトチームのまとめ報告及びプロジェクトチームの終了について承認。残された課題については、運営会議にて継続検討とする。 【令和3年度】 ・第36回全体会（令和3年6月）にて、移動に関するプロジェクトチームの最終報告書を札幌市のホームページに掲載することを決定。今後も報告書については、移動に関する困りごとや工夫について周知するときに結果を利用することを依頼。残された課題について解決へ向けての検証の場を引き続き運営会議や自立支援協議会の中に持っていくことを承認。	

No. ねんど (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	カテゴリ
れい 例	だれ なに こま 誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	だれ 誰が なに 何を いつ どのように	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、 〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
41 (H26) つづき				<p>【令和3年度】</p> <p>・第37回全体会(令和3年12月)</p> <p>移動プロジェクトの成果(報告書)については運営会議で継続的に確認。各地域部会でも活用してもらうように地域部会連絡会で報告・依頼している。報告書の内容についても協議会会長で引継ぎがされ、障がい者プランで検討してもらえるものは検討してもらうように働きかけていく。</p> <p>【令和4年度】</p> <p>・第39回全体会結果(令和5年12月8日)</p> <p>移動プロジェクトチームの取組結果をさっぽろ障がい者プランに提言することについて承認される。</p> <p>・運営会議結果(令和5年3月16日)</p> <p>「札幌市自立支援協議会における障がいのある方の地域生活におけるこれまでの地域課題と協議会での取組み」として、協議会の提言・意見、取組み内容を令和6年度改正予定のさっぽろ障がい者プラン策定検討に関わる障がい福祉課担当部署に提出した。</p> <p>【令和5年度】</p> <p>・第40回全大会結果(令和5年6月21日)</p> <p>さっぽろ障がい者プランの改訂へ向けて、自立支援協議会よりプラン策定に関わる課題等について提言を札幌市施策推進審議会 計画検討部会にて行っていくということを共有した。</p> <p>・令和6年3月に令和6年度からのさっぽろ障がい者プラン2024が策定された。その中の障がい者計画の基本施策1に「バリアフリー環境の整備」が示された。建築物のバリアフリーや移動のバリアフリーについての新規事業がいくつか示されている。</p> <p><a href="https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/keikaku/">https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/keikaku/</a></p> <p>※また、福祉のまちづくり推進会議においては、札幌市福祉のまちづくり条例施設整備マニュアル改訂など、バリアフリーに関する検討がすすめられた。</p> <p><a href="https://www.city.sapporo.jp/fukushi/suishin/shiryou/shiryou.html">https://www.city.sapporo.jp/fukushi/suishin/shiryou/shiryou.html</a></p> <p>⇒上記には協議会から提言された内容について、一部取り上げられている。</p> <p>※主カテゴリ「移動」については、一定の改善がみられたため一旦協議会としての取組み終了。副カテゴリ「ヘルパーの技術向上」については重症身体障がい者の地域生活に関するプロジェクトチームにて継続検討中。</p>	

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム） としての見解	結果	
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解を受けた結果、 〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	カテゴリ
5 (H24)	<p>養護学校からの帰りに、児童デイに通わせたいが、家族が仕事などで送迎することができないため困っている。私的契約で送迎サービスを行っている児童デイの事業所は少なく、あったとしても既に定員がいっぱいである。一方、福祉輸送サービスだと割高で利用できない。（東区5）</p>	<p>●障がい児の通学・通所に利用できる送迎サービスの充実を図る。 ●移動困難者への支援をより重点的な課題ととらえ、障がい分野以外（教育分野など）とも連携し、解決策を検討する。 ●児童デイサービス事業所のあり方について本質的な議論を行う。</p>	<p>【課題整理済】41の見解と同じ ・福祉の問題、教育の問題という分け方ではなく、また普通教育と特別支援教育の問題と移動の確保の問題は別の問題。 ・福祉と教育の現場レベルの意見交換があってもよい。プロジェクトを作って現場レベルの担当者が非公式で話し合っても良いと思う。子ども部会でも同様の問題が出ている。 ・No.11の学内のボランティアの問題も含め、考える。 ・石狩管内特別支援教育ネットワーク連絡協議会には、障がい別（視覚、聴覚、知的、肢体不自由（旧礼肢ネット）、病弱）と地域別（東、西、南、北）に部門を分けて関係機関との連携構築などに取り組んでいる模様。 ⇒教育と福祉の連携に係る課題検討会を立ち上げて課題整理を行った（25年度実施、26年度から子ども部会にて引き続き検討。また移動に関する課題の一つとしても、41の見解のとおり検討も進める）</p>	<p>【東区との意見交換結果】 ・学校の敷居が高いと感じている。実現したら連携が進むのではないかと期待している。  【参考】 ・障害者総合支援法の改正（平成30年度施行）により、障害福祉サービス等の情報公開制度が創設。項目に「利用者の送迎の実施」があり。  運営会議（H30.12）⇒No.41の記載と同様</p>	主：移動 副：教育
9 (H24)	<p>・移動困難者の通学・通勤・通所が保証されていない。 ・東区は地下鉄沿線外の移動（交通）が不便である。（東区9）  ※個別ケースのため詳細は記載しません。</p>	<p>●障がい者の移動の自由を確保するため、移動支援事業の対象要件の見直しを検討するとともに、送迎付きの事業所が増えるような施策を検討する。 ●現行の障害程度区分認定のしくみを見直す。 ●障がい程度区分認定調査員のスキルアップを図る。</p>	<p>【課題整理済】41の見解と同じ 東区だけの課題ではなく、全市的な課題と認識されるため、以下の流れで、課題解決や情報共有を進める。 【第1段階】 各区地域部会が、各部会の開催時等でできるだけ速やかに、各区で障がい者の通勤・通所に関して課題になっていること及び各区またはある地域で工夫している事例を集め、まちの課題整理プロジェクトチームへ報告する。 【第2段階】 まちの課題整理プロジェクトチームが、上記課題及び工夫点を集約して、それぞれの課題について、解決策を考える部会ごとの役割分担を行い、課題及び解決策をまちの課題整理プロジェクトチームがまとめて、協議会全体で共有及び全体会（運営会議）に報告する 想定される課題は、移動支援の要件、交通費助成、各事業所や地域での工夫、実際の対応など ※通学の課題は「福祉と教育の私的勉強会」に委ねる</p>	<p>・地下鉄沿線外等、本人のみならず、環境が原因となっていることも大きい。 ・通所の送迎加算は通所人数に応じて設定されているが、送迎1件あたりに平均しても150円。 ・雪国という事情も勘案して特区があってもよいのではないか。制度の話ではあるが、国に訴えていく要素もある。  【令和元年度～令和5年度】 ・No.41の記載と同様。  【参考】 ・札幌市では、令和4年度から、重度の障がいのある方の雇用の促進を図ることを目的に、重度の障がいのある方の通勤支援や職場等における支援を実施するため「札幌市障がい者就労支援事業」が開始された。（令和6年4月一部改正）支援計画書作成支援費について追加 <a href="https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/syurou/zyuudosyogaisasyuurosien.html">https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/syurou/zyuudosyogaisasyuurosien.html</a></p>	主：移動 副：教育

No. ねんど (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム） としての見解	結果	
れい 例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解を受けた結果、 〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	カテゴリ
16 (H24)	障がい児の通学に関して、移動介助が必要なケースに対する支援の必要性。（東区16） ※個別ケースのため詳細は記載しません。	●市に、移動支援事業の拡大、その他の施策の実施、ガイドラインの柔軟な適用を求める。 ●移動困難者への支援をより重点的な課題ととらえ、障がい分野以外（子育て分野など）とも連携し、解決策を検討する。	【課題整理済】41の見解と同じ	【令和元年度～令和5年度】 ・No.41の記載と同様。	主：移動 副：教育
19 (H25)	障がい児の通学に関して、移動支援が必要なケースに対する支援の必要性。（相談1） ※個別ケースのため詳細は記載しません。	・移動支援の通学利用に関わる利用条件が限定的。 ・経済的に負担の少ない通学に使える移動支援の社会資源がない。	【課題整理済】41の見解と同じ	【令和元年度～令和5年度】 ・No.41の記載と同様。	主：移動 副：教育
42 (H26)	4月特別支援級の小学1年生に進級する軽度発達障がいの男子。下に幼稚園に入園する弟がおり、母親一人では2人を別々の幼稚園、学校に送れないため、移動支援の通学利用でヘルパーを利用したいという希望があったが、身体介護なしで単価も安く、時間帯もヘルパーが都合がつかなくて対応してもらえる事業所が見つからなかった。（相談11）	移動支援の通学利用は、必要とする人たちの時間帯がかかるため、ヘルパーが足りずに対応してもらえない。尚且つ、身体介護なしの支給決定だと単価が安くて引き受けてもらえる事業所がない。	【課題整理済】 ・「移動」に関する課題をまとめて、まちの課題整理プロジェクトチームとして解決への方向性（案）を検討した結果、今後はその案をもとに別に検討会議を設けるか、あるいは大学等の機関にも協力してもらい、移動に関する課題について一体的に解決に向けた方向性を整理する予定。  ・平成28年度、「障がいのある方の移動の支援に関するアンケート」を委託相談を対象に実施。  ・運営会議内に移動に関するワーキングチームを設置することを決定。活動内容は主に課題整理と課題解決へ向けての方向性の提案とする。ワーキングチームからの提案内容については、運営会議で検討する。活動期限は、まちづくり推進会議への課題の提案と次期障がい者プランの見直し、方向性の提案を行うまで。（平成30年6月運営会議にて、チームメンバー等決定）	※一定の改善がみられたため、一度協議会としての取組み終了。	主：移動 副：教育
43 (H26)	母が精神障がい、障害児の登校の付き添いや送り出しができず、不登校になってしまっている事例等。（相談12）	移動支援が、申請により通学にも利用できるよう制度は拡充されたが、実際に支援してくれるヘルパー事業所が極端に少なくて苦慮している。事業所が見つからないために家族が多大な負担を強いられたり、児童が不登校になっていたという事例が多く存在する。	【課題整理済】42の見解と同じ  子ども部会に情報提供	※一定の改善がみられたため、一旦協議会としての取組み終了。	主：移動 副：教育

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム） としての見解	結果	
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解を受けた結果、 〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	カテゴリ
11 (H24)	<p>学校内の移動などを支援してくれるボランティアを探している。学校でも探してくれたが見つからない。(東区11)</p> <p>※個別ケースのため詳細は記載しません。</p>	<p>●学校内での移動の自由を確保するため、市教委に「学びのサポーター」の活用拡大を働きかける。</p>	<p>【課題整理済】 ⇒教育と福祉の連携に係る課題検討会を立ち上げて課題整理を行った（25年度実施、26年度から子ども部会にて引き継ぎ検討する）</p>	<p>学びのサポーターに関して、平成27年度より、身体介助を専門に行う介助アシスタントを新設。</p> <p>【参考】 令和4年度に作成された札幌市自立支援協議会好事例集に課題の取り組みについて掲載された。 <a href="https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/tiikijiritusien/documents/koujireisyuu.pdf">https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/tiikijiritusien/documents/koujireisyuu.pdf</a></p> <p>※一定の改善がみられたため、一旦協議会としての取組み終了。</p>	主：教育
99 (H29)	<p>保護者が子どもの不登校と暴力で困っているが、学校側に家庭の事情がうまく伝わらず、対応がうまくいかない事例。 最終的には、学校や行政と会議をし情報共有を重ねることで、理解を得て朝からデイサービスへ行くことで合意できたケース。</p> <p>※個別ケースのため詳細は記載しません。 【相談】</p>	<p>【課題】 不登校児についての相談の増加とその対応。教育機関との連携について</p> <p>【考えられる課題解決策】 ○家庭訪問や個別対応など、手厚い対応のできる専門性のある事業所の育成。 ○教育機関と障がい福祉分野の相互理解、協力体制の構築のための研修等。 ○不登校児のメンタルケアについての研修。 ○教育機関との連携の仕組みの検討。 ○関係機関がそれぞれの機能を理解するやり取り（学校との理解・連携）</p> <p>*子ども部会に学校の方が入ってきてもらっており、少しずつ変わってきている様子もある。</p> <p>*企画推進室の研修会アンケートでも不登校、引きこもりの研修を希望する声が多かったので、相談支援部会の企画推進室でも研修を考えていけるのではないかな。</p>	<p>【課題整理済】 ・不登校の問題は、取り組まなくてはならない課題となっている。 ・児童相談所から放課後等デイサービスへの相談も増えてきている。 ・福祉と学校の連携ができているところはすぐく連絡を取りあって、保健室対応や放課後等デイサービスをうまく利用できている。学校側の理解が追いついていないと、困難な状況が出てくるため、色々な人たちと連携をしていくしかない。 ・スクールソーシャルワーカーの体制整備の課題でもあるのではないかな。</p> <p>※課題については、教育と福祉と医療の連携プロジェクトチームで検討を進める。</p>	<p>・教育と福祉と医療の連携プロジェクトチームについては、一定の成果を元に平成30年度末で終結（平成30年度第1回全体会で確認）。課題については、引き続き子ども部会で検討継続。</p> <p>【参考】 札幌市で行われている不登校児支援 ・教育支援センター <a href="https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/sodan/kyousourokushisetu.html">https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/sodan/kyousourokushisetu.html</a> ・相談支援パートナー事業 <a href="https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/sodan/soudanshien.html">https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/sodan/soudanshien.html</a> ・札幌市フリースクール等民間施設事業費補助金 など <a href="https://www.city.sapporo.jp/kodomo/ikusei/freeschool.html">https://www.city.sapporo.jp/kodomo/ikusei/freeschool.html</a></p> <p>※一定の改善がみられたため、一旦協議会としての取組み終了。</p>	主：教育

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要	誰が何をいつどのように	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、 〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	カテゴリ
108 (R1)	サポートファイルさっぽろについて、保護者の物として、扱 うと作成されないことがある。【南区】	保護者が作成しない場合、情報が途切れてしまう。作成につ いてサポートする機関が必要ではないか？	【課題整理済】 (2019年7月16日運営会議) ・義務教育のお子さん(特別支援学校や学級)については、 個別の教育支援計画(様式はサポートファイルさっぽろ)の 作成が義務化になった。学齢期になれば、サポートファイル さっぽろの様式が、学校で個別の教育支援計画作成のツール として活用される。学齢期以前は保護者については、作成有 無によって違いが出てくる。会議自体が発達障がいに特化し た会議となっているため、障がいの有無に関わらずすべて のお子さんが作成するとすると、担当部署間での様々な調整が 出てくることが予想される。行政からは、障がいの有無に関 わらず活用できるとして市内の全小中学校へは周知案内をし ている。  ・もともと子ども分野で話題が出ていたものだったので、課 題検討については子ども部会で引き続き検討させてもらいた い。今年度中には何らかの結論を出せるようにする。	●子ども部会で継続審議中。 【令和4年度】 ・第39回全体会結果(令和4年12月8日) 子ども部会よりサポートファイルさっぽろの学習会を子ども部会で行っ たと報告あり。  【参考】 ・札幌市発達障がい者支援地域協議会 家族への支援部会(令和2年度～) の活動内容のひとつとして、サポートファイルさっぽろの普及啓発の取り 組みが行われている。 <a href="https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/hattatu/kyougikai.html">https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/hattatu/kyougikai.html</a>  <u>※一定の改善がみられたため、一旦協議会としての取組み終了。</u>	主：教育
17 (H24)	●医療機関の受け入れ態勢が整っていない ●医療機関に関する情報が不足している ●研修体制が充実していない(北区1)	福祉と医療の連携について	【課題整理済】 ○各部会が医療機関(精神科病院に限らず)への参加を呼び 掛ける。 ○北海道歯科医師会が積極的障がいに関する勉強会を開催 しているので、他の医師会等とも連携できないか、上記部会 への参加を通して、各部会で検討する。 ○さっぽろ医療計画との連携ができないか確認する。 ○まちの課題整理プロジェクトチームが、具体的な課題の背 景を北区地域部会に確認し、それをもとに市内の医療機関等 にアンケート等で実態を聞いてみる。	・平成30年度 教育・福祉・医療のプロジェクト、子ども部会の事務局 で、医ケアの検討会が設置されたためこの課題については、そこで対応し ていく。  ・子ども部会の支援力向上セミナー、自立支援協議会でも研修を開催して いる。  <u>※一定の改善がみられたため、一旦協議会としての取組み終了。</u>	主：医療